

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第293回

大泉 洋

の名言

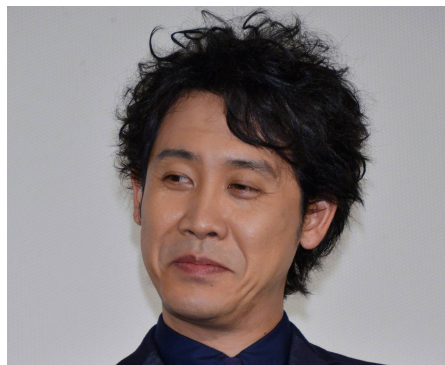
発行：入試広報室

発行日：令和4年2月7日

編集委員：入試広報室 鈴木

## 今回の言葉

できないときは人の力を借りれば  
いいし、人に頼ることは  
悪いことじゃないんじゃないかな。



大泉 洋は、日本の俳優、タレント、声優、作家、歌手、コメディアン。元々は北海道でローカルタレントとして活動していた。愛称は「洋ちゃん」。所属事務所は CREATIVE OFFICE CUE、業務提携先はアミューズ。演劇ユニット・TEAM NACS に所属している。以前は、音楽ユニット・FAN TAN にも所属していた。

## Column

俳優としてシリアスな演技もしっかりこなし、お笑い芸人に囲まれても対等に渡り合って爆笑を取るというマルチな才能を発揮している大泉さんにも“できない時”が存在するのかと驚きました。『人に頼る』ということは簡単なことではありません。しかし家族にはわがままと叱られるほど頼ることができます。その違いは一体何なのでしょう。それはきっと今回の言葉にあるように“悪いこと”だと感じてしまうからではないのでしょうか。大泉さんが言うように、人に頼ることは悪いことだとは私も思いません。そもそも悪いことであるならば、人の力を借りることや頼るということは、たとえ家族であってもいけないのだと思います。みなさんのことを大きな愛情を持って見守ってくれている人からすれば“もっと頼ってくれていいんだよ”と思ってくれているのかもしれない。

ここまで述べながら、なぜ人に頼ることを悪いことだと感じてしまうのかを考えている中で、何かに挑戦する時に協力を依頼しても断られてしまったり、助けてほしい時に助けてもらえなかったりした経験から人に頼ることが“怖い”と感じ人を信じられなくなった人もいないという考えが浮かびました。そういう考えに至った人は、自力で解決できないことを全て自分の力不足と感じ、『自分のせいだから…』と様々な“壁を乗り越える”ということを諦めてきたのではないのでしょうか。そうになってしまうと周りの人だけでなく自分のことも信じられなくなり、人に頼るところが簡単なコミュニケーションも取りにくい毎日を過ごしているのかもしれない。

今回のコラムは“かもしれない”という言葉を用いています。なぜ多用しているかというと、そのくらい人の心は読み取りにくいということを伝えたいからです。先に述べたように助けてもらえなかったという人がいたとして、仲間はあなたが見ていないところで助けてくれていたのかもしれない。何より『あなたならできる!』と思って乗り越えてくることを待っていてくれるのかもしれない。今回の言葉に“できないとき”とあります。まずは『もう無理!』と思うところまで挑戦してみましょ。そして普段から仲間とのコミュニケーションをしっかり取りましょ。本当のピンチの時、きっと目の前に手が差し伸べられるはずです!